

拠点名称：フード・トランスフォーメーションが結ぶ環境・観光アイランド実現拠点

代表機関	琉球大学	プロジェクトリーダー	平良 東紀 琉球大学 農学部 教授
幹事自治体	うるま市, 沖縄市	幹事機関	合資会社オキスイ, 株式会社バイオジェット
参画機関	沖縄県農林水産部畜産研究センター 沖縄ガス株式会社, オリオンビール株式会社, 共和化工株式会社, 株式会社日本フードエコロジーセンター		

プロジェクトの概要

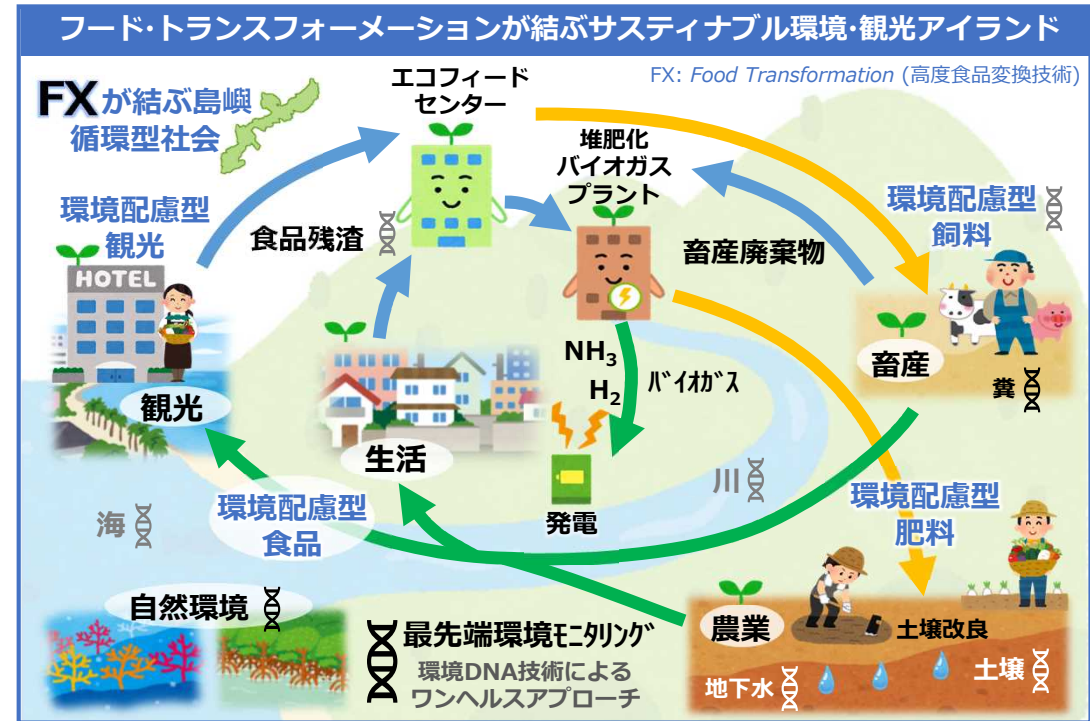
【ビジョン：食品・畜産・農業の高度連携によって資源を循環させ持続可能な環境・観光の島を創る】

農業の化学肥料と畜産の穀物飼料はほとんど輸入しており、食品も県外・国外から仕入れている。化学肥料や外国産穀物飼料の使用、食品の廃棄は環境負荷が極めて高く、販売価格・供給量が海外情勢に著しく左右されるため、適正利用と自給率の向上が必要である。加えて「島嶼圏」沖縄は狭い土地に自然・農地・生活圏・リゾート地が近接し、資源の浪費による経済的損失と廃棄物による環境汚染が深刻な問題となっている。環境に配慮した高効率な資源循環は、県民の生活と自然環境を守り、観光立県沖縄の持続可能な発展に不可欠である。本プロジェクトでは、地域住民・自治体・企業・大学が食品・畜産・農業・観光の高度連携によってエネルギーを含めた資源循環を実現することで、持続可能な環境・観光立県を共創することをビジョンとした。

【ターゲット① 廃棄物ゼロの超循環農業・畜産システムの構築】IoT/AIを活用した高度エコフィードシステムで食品残渣の飼料化を行い、環境配慮と高度な栄養管理、病原体管理を両立する畜産を展開する。さらに飼料化に適さない食品残渣は畜産廃棄物と共に堆肥化・エネルギー化する超循環農業システムを構築する。

【ターゲット② 島嶼自然環境のマネジメント】環境DNA技術を用いた最先端のモニタリング技術により、ワンヘルスアプローチ（人・動物・環境の健康・健全性に関する課題を網羅的に検討）に基づき、ターゲット①のシステムを評価し、フィードバックすることによって環境マネジメントを行う。

【ターゲット③ 環境配慮型観光のマネジメント】①で生産される農・畜産物に「環境配慮型（＝資源循環型）」という付加価値を与え、これらを使った料理を観光地・ホテルで提供し、加工品の製造・販売も行うなど地域で経済が回る「持続可能な農・畜産物経営」を構築する。ホテルでの食品リサイクルループの構築も行う。



ビジョン：食品・畜産・農業の高度連携によって資源を循環させ持続可能な環境・観光の島を創る。

